

京急グループ総合経営計画について

京急グループでは、事業環境の変化に対応し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指すため、当社グループの一大プロジェクトとなる品川駅周辺開発を見据えた、20年間にわたる「京急グループ第18次総合経営計画」を2016年3月に策定しました。本計画では、2035年度を目標年次として長期ビジョンと長期経営戦略を見直すとともに、長期ビジョン実現に向けた最初のステップとして「中期経営計画(2016～2020年度)」を策定し、推進しています。なお、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各施設やサービスの利用者数の大幅な減少が見られる等、感染症拡大の影響は甚大ですが、感染症拡大防止策等を講じて事業を継続し、公共交通機関をはじめとしたライフラインを担う企業集団としての責務を全うしてまいります。

京急グループ総合経営計画の体系



1 グループ理念

■ 経営理念

- 京急グループは、都市生活を支える事業を通して、新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する
- 京急グループは、伝統のもとに、創意あふれる清新な気風をもって、総合力を発揮し、社業の躍進を目指す
- 京急グループは、グループの繁栄と全員の幸福との一致を追求する

■ 行動指針

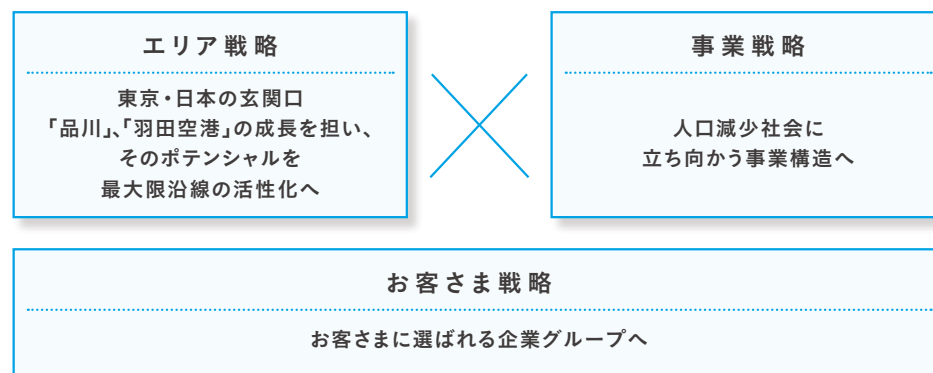
- 安全・安心を最優先し、感謝と誠意をもって、顧客の信頼を獲得しよう
- たえず研鑽し、進取の精神をもって、可能性に挑戦しよう
- 誇りと責任をもち、相互の信頼を深め、仕事に取り組もう

2 長期ビジョン[2035年度に目指す将来像]

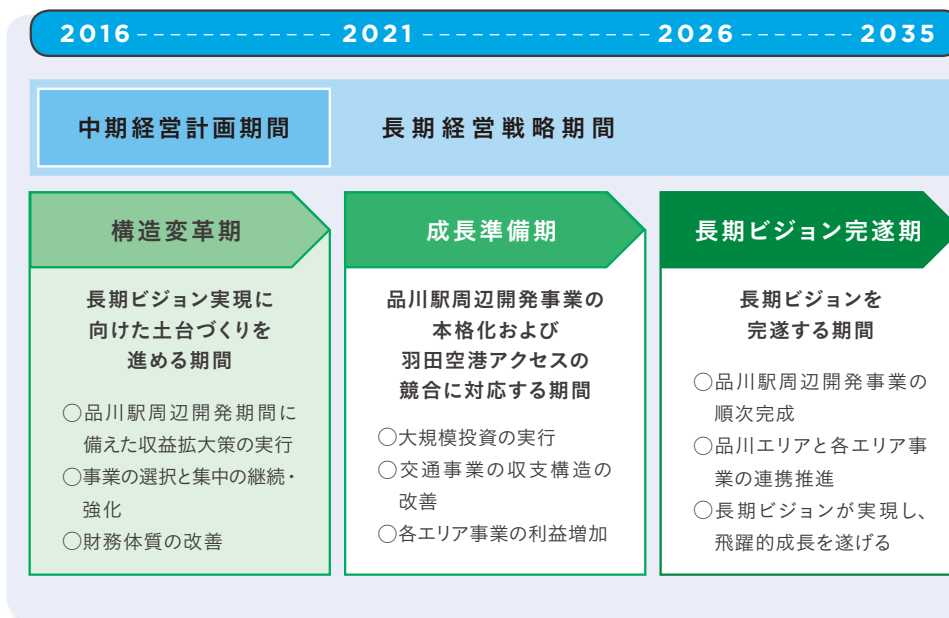
品川・羽田を玄関口として、
国内外の多くの人々が集う、豊かな沿線を実現する

3 長期経営戦略

基本方針(3つの柱)



ステップ



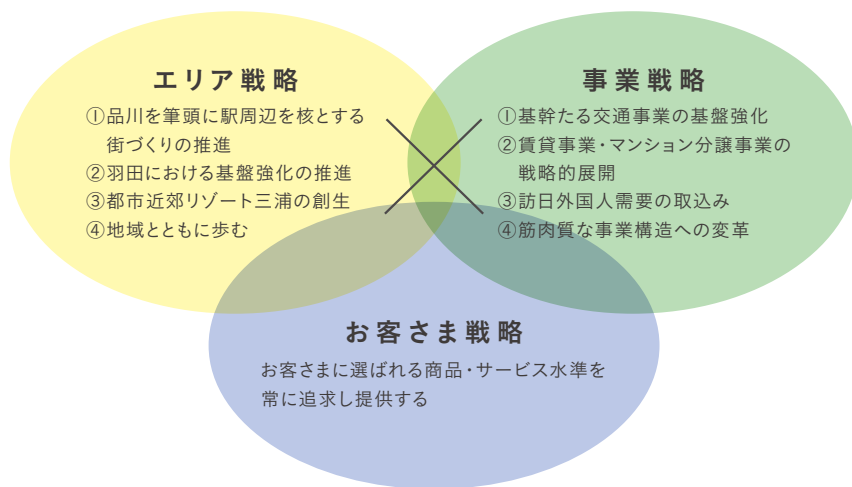
4 中期経営計画(2016~2020年度)

中期経営計画期間は、「構造変革期」として位置付け、企業体質の変革に向け、事業再編やお客さま志向の徹底に取り組むとともに、各エリア事業の取り組みを強化し、長期ビジョンの実現に向けた土台づくりを進めました。

不動産賃貸業については、賃貸オフィスや賃貸マンションを新規取得するなど、成長投資を推進してまいりました。一方、不要な資産の売却を行うなど事業の選択と集中を進め、2020年度以降に本格化する品川駅周辺開発に備え、事業基盤の強化に努めてまいりました。また、今後の事業環境を見据えた他社との事業連携や新規事業等への展開を行うとともに、グループ会社再編を含めた業務推進体制を再構築するなど、長期ビジョンの実現に向けた推進体制の強化を図ってまいります。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大により、業績の大幅な悪化が予想されるため、事業継続に必要な「手元流動性の確保」を重視し、コスト削減、さらなる投資峻別、資金調達を行ってまいります。

重点テーマ



5 目標指標

品川駅周辺開発の本格化を前に、キャッシュ創出力の向上と、大規模投資に備えた財務体質改善を重視し、2020年度の目標指標を「営業利益:330億円、EBITDA:680億円、純有利子負債:4,200億円、純有利子負債/EBITDA:6.2倍」と定めました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、業績の大幅な悪化が予想されており、目標指標の達成が困難な状況となっております。

6 京急ism(イズム)~京急グループが求める人材像~

「京急ism」は、京急グループが培ってきた強みを正しく認識しつつ、さらなる発展に向けて、すべての従業員が理解し、共有すべき価値観であり、挑み続けるべき目標として掲げられている人事ビジョンです。

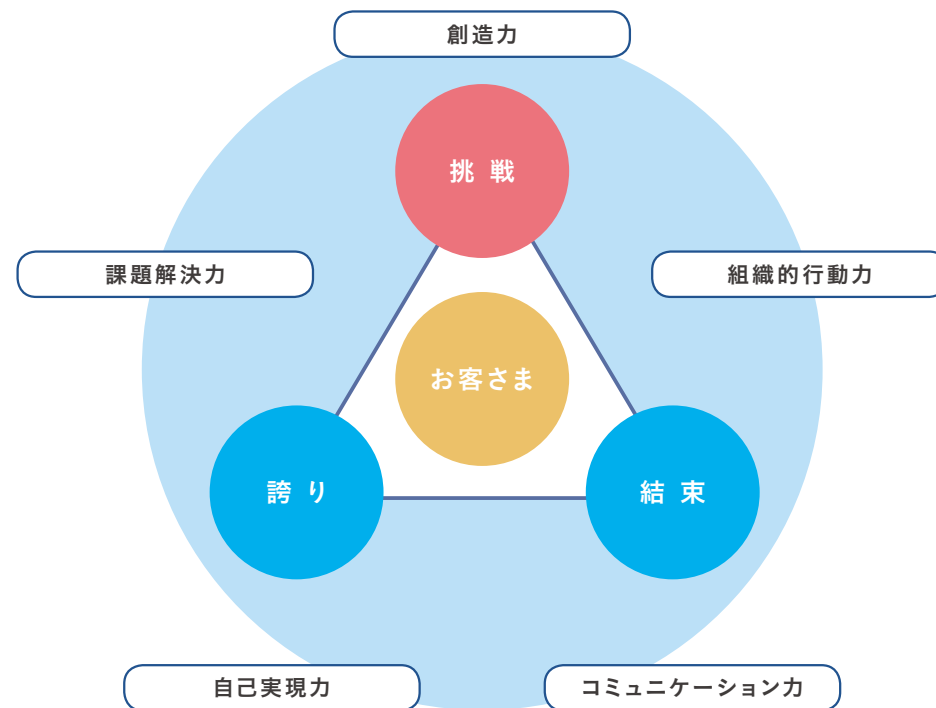
特に京急グループ総合経営計画において「構造変革期」と位置付けられる中期経営計画の推進にあたっては、「挑戦」を重点キーワードとして、徹底したお客さま志向のもと、グループ全体が一丸となり、新たな可能性に挑み、新しい価値を創造する人材集団を目指します。

また、京急ismの実現に向け、「5つのチカラ」をグループ共通の人材育成方針としています。

人事ビジョン【京急ism】

- 誇り** 一人一人がプロフェッショナルとして自律し、課題解決意識をもって業務に取り組む
- 結束** 目的・方向性を共有し、グループの連携力を最大限に活かして業務に取り組む
- 挑戦** 新たな可能性に挑戦し、お客さまに新しい価値を提供し続ける

人材育成方針【5つのチカラ】



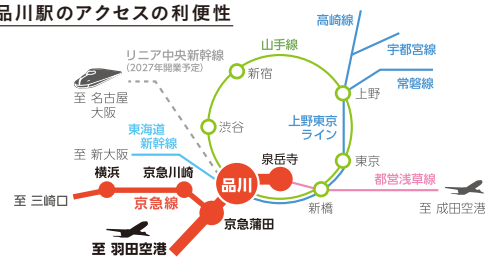
【中期経営計画】 エリア戦略の重点テーマ ①

品川を筆頭に駅周辺を核とする街づくりの推進

品川駅周辺での事業展開

京急グループは、品川駅周辺に約60,000㎡の土地を保有し、「品川駅」や「SHINAGAWA GOOS」をはじめ、ホテル・オフィス・商業施設など、さまざまな事業を展開しています。

品川駅のアクセスの利便性



ホテル事業

- 京急 EXホテル 品川／高輪
高輪口から徒歩3分、2館あわせて1,000室以上の客室数を誇ります。
- 京急 EXイン 品川・泉岳寺駅前
羽田空港にアクセス良好で高輪ゲートウェイ駅開業や周辺再開発も計画されている泉岳寺駅前に2016年6月開業。

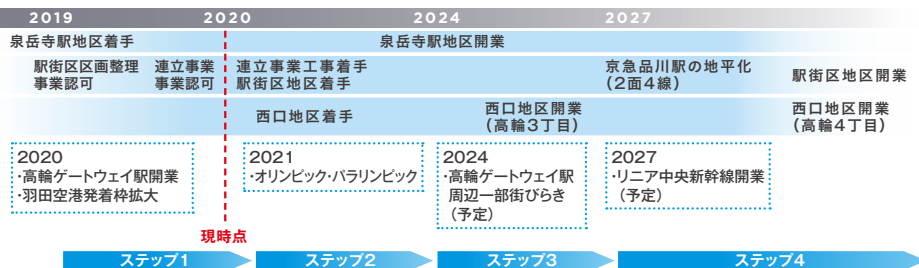
京急品川駅および周辺の開発

品川駅周辺の発展を担う事業者として、国際交流拠点化に向けた開発事業を推進。品川駅が持つポテンシャルを最大限に活用し、新しい街の創造に向けて着実に進展しています。



※ GoogleMaps から引用し京急電鉄作成

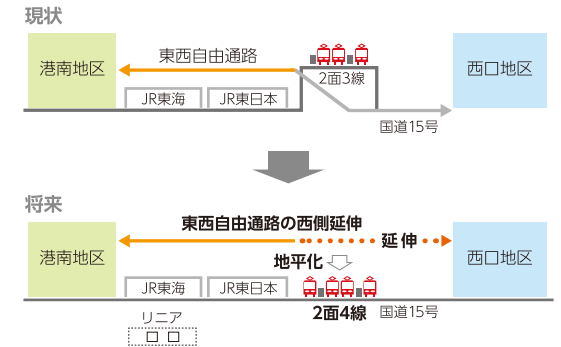
品川駅周辺開発事業 開発スケジュールイメージ



●京急品川駅の地平化(2面4線)

品川駅は、現在高架にある2面3線のホームを地レベルに配置し、あわせて2面4線化をすることにより、利便性向上および空港アクセス強化を計画しています。品川駅を地平化することで、品川駅東口から東西自由通路を延伸させて国道15号を越えて西口地区へとつなぐ歩行者ネットワークを構築することが可能となり、乗り換えの利便性や安全性が向上した魅力的な駅への再編に取り組みます。

京急品川駅の地平化(2面4線イメージ)



●「西口地区」の開発

西口地区では、地域が持つ歴史や豊かな緑地との調和をとりながら、品川の交通結節点としての強みを生かすビジネス拠点の形成を目指します。さらに多様なMICE空間、時間消費型の商業施設や国際水準のホテルなどさまざまな都市機能の集積を図るとともに、新たな生活様式や社会的な価値観の変化にも対応した国際交流拠点・品川にふさわしい新たなフラッグシップエリアを実現します。



西口地区 (パースはイメージです)

●「駅街区地区」の開発

駅街区地区では、大規模ターミナル直上・直結という抜群の利便性を生かした複合施設を計画しています。また、国道15号上空を活用したデッキ整備計画(国道15号・品川駅西口駅前広場)とも連携し、世界と日本各地から人々を迎え入れる「品川の顔」となるように、駅・まち一体型の開発を目指します。

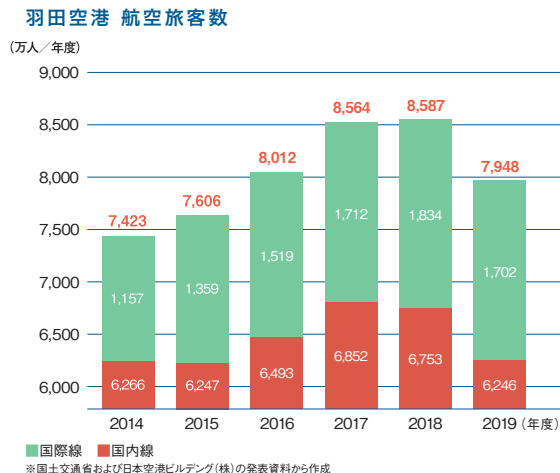


駅街区地区 (パースはイメージです)

羽田における基盤強化の推進

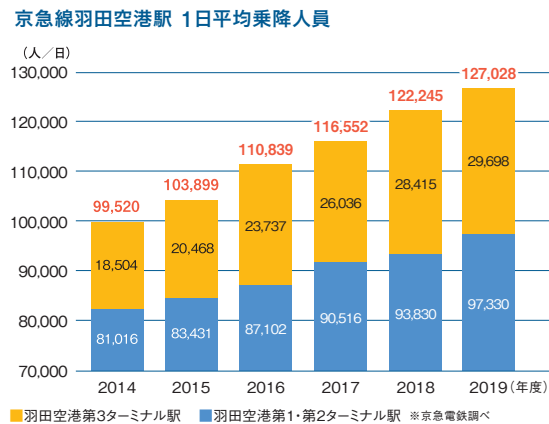
羽田空港における航空旅客数の増加

羽田空港は、国内49都市、世界25か国・地域の54都市とネットワークを形成しており、2018年度の国際線・国内線をあわせた年間航空旅客数は、過去最高を記録しました。2019年度も順調に推移していましたが、第4四半期から新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて減少しています。



拡大する京急線需要

航空旅客数の増加や、ダイヤ改正で羽田空港アクセスを向上させたことなどにより、2019年度駅別1日平均乗降人員では、羽田空港第3ターミナル駅が29,698人(前年比4.5%増)、羽田空港第1・第2ターミナル駅が97,330人(前年比3.7%増)を記録し、羽田空港駅の合計では、127,028人(前年比3.9%増)を記録しました。



羽田空港アクセスを担う

空港リムジンバス

- 羽田空港から各地へ
- 直通運行**
- 国際線需要の増加には
- 多言語でのサービス対応**



羽田空港

京急線

- 品川～羽田空港第3ターミナル駅間**最短11分**
- 品川方面、横浜方面とも直通電車を**10分間隔**で運行



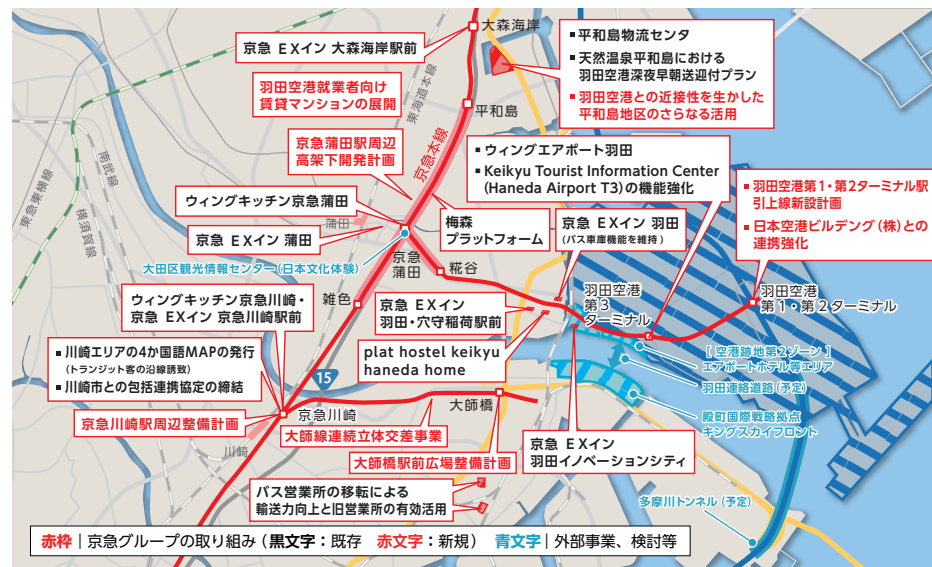
タクシー

- 東京都と神奈川県内の対象エリアで、羽田空港アクセスを定額料金で利用できる
- 「定額制タクシー」**を導入



羽田空港周辺エリアにおいて事業を拡大

羽田空港周辺で、ホテルや商業施設など、さまざまな施設を運営しています。京急蒲田駅周辺の高架化に伴い、連続的な高架下スペースを活用し大森町～梅屋敷駅間に「ものづくり」をコンセプトとした複合施設「梅森プラットフォーム」を2019年4月に開業しました。また、天空橋駅直結のHANEDA INNOVATION CITY内に「京急 EXイン 羽田イノベーションシティ」が2020年9月1日に開業、さらには、羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線新設計画など羽田空港周辺エリアの利便性を活かした積極的な投資を推進し、羽田空港需要を余すところなく取り組んでいきます。



■ HANEDA INNOVATION CITY先行開業

京急電鉄が事業参画するHANEDA INNOVATION CITY <略称: HICity(エイチ・アイ・シティ)>は、「先端」と「文化」の融合による新しい価値の創造をコンセプトに、広く世界と日本を結ぶ国際産業拠点として天空橋駅前に2020年7月3日、オープンしました。利便性向上のため駅直結改札口「HICity口」も新設され、羽田周辺エリアにおいて注目される大規模複合施設です。



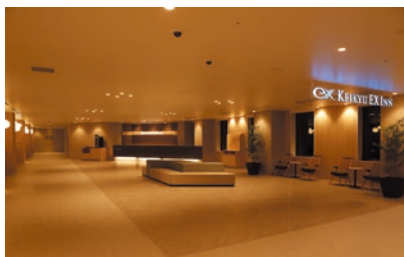
羽田市街地より、奥に羽田空港を望む全景



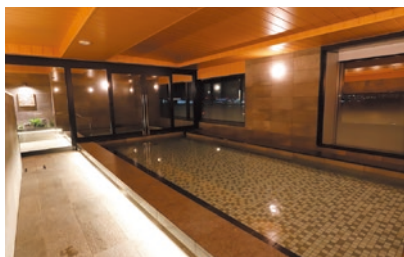
にぎわいの歩行者デッキ (イノベーションコリドー)

■ 「京急 EXイン 羽田イノベーションシティ」開業

京急電鉄は2020年9月1日、HANEDA INNOVATION CITY内に「京急 EXイン 羽田イノベーションシティ」を開業しました。客室は259室(セミダブル217室、ダブル18室、ツイン・トリプル・ユニバーサル計24室)、ホテル内にはニーズの高い大浴場を京急イーエクスインホテルグループとして初導入し、宿泊者向けに羽田空港への送迎バスを運行します。また同敷地内には、会議研修施設が整備、併設されるため、この好立地を生かし、会議・研修への参加者の宿泊ニーズに応えていきます。



ホテルロビー



大浴場



客室



トリプル

■ 「京急EXホテル」・「京急EXイン」の2ブランドで多店舗展開

2007年に開業した京急イーエクスインは、羽田空港や品川駅への高い交通利便性を強みに、宿泊特化型ホテル「京急EXホテル」、「京急EXイン」の2ブランドでチェーン展開しています。2020年4月7日、日本橋に「京急 EXイン 東京・日本橋」、9月1日には羽田に「京急 EXイン 羽田イノベーションシティ」の2館をそれぞれオープンしました。本年の出店により、羽田エリアは3館732室となり、京急イーエクスインホテルグループとしては、全17館3,451室の営業展開となります。

ビジネスホテルを利用されるお客さまは、これまでの国内出張ビジネスに加え、インバウンドや国内レジャー需要など、より一層の多様化が進むとともに、ホテルで過ごす時間にさらなる付加価値を求めるお客さまも増加しています。「京急EXイン」と、従来のビジネスホテルからワンランク上の「京急EXホテル」の2ブランド体制により、多様化する宿泊ニーズを取り込みます。また、ホテルチェーンとして、新型コロナウイルスの感染予防に向けたガイドラインを策定し、お客さまと従業員の健康と安全を第一に考えた環境作りに取り組み、「安全」「安心」「感動」の提供をテーマに、つねにお客さまに選ばれ、喜ばれるホテルを目指します。今後も、京急沿線や都心部、そしてますます発展していく羽田エリアにおけるホテル事業基盤のさらなる強化を展開するとともに、羽田空港への利便性に優れた国内主要都市への出店を積極的に進めていきます。

EX
KEIKYU EX HOTEL



EX
KEIKYU EX INN



都市近郊リゾート三浦の創生

三浦半島は都心部の近郊に位置しながら、美しい自然に囲まれています。京急グループでは、鉄道・バス・タクシーなど三浦半島の交通網の連携強化を図るほか、展開しているリゾートホテルから水族館、ヨットハーバーまで、さまざまな事業を通じて観光の活性化などを推進します。

● レジャー施設

葉山マリーナ
京急油壺マリンパーク
油壺京急マリーナ



● ホテル

観音崎京急ホテル・SPASSO
ホテル京急油壺 観潮荘



● おトクなきっぷ

みさきまぐろきっぷ
よこすか満喫きっぷ
葉山女子旅きっぷ
三浦半島 1 DAYきっぷ & 2 DAYきっぷ



■ 地元自治体と協力した認知度向上への取り組み

「YAMAP」アプリで三浦半島の山歩きプランを提案

京急電鉄は、新規事業創出プログラム「京急アクセラレータープログラム」の採択企業である(株)ヤママップと連携し、オフラインで使えるGPSアプリ「YAMAP」を活用した、三浦半島の山の魅力の発信を進めています。その一つとして、(株)ヤママップと共同で製作した「三浦アルプス」、「大楠山・三浦富士」の2コースのマップを特設WEBサイトおよび「YAMAP」アプリ上で配信し、京急グループの電車・バス、施設と「YAMAP」アプリを使った新しい山歩きプランを提案しています。



アプリ画面イメージ

■ 三浦半島の観光情報サイト「三浦半島の小さな旅」をオープン

2019年3月に、三浦半島の観光に便利な情報や、京急グループが実施するイベント情報などを発信するWEBサイト「三浦半島の小さな旅」を開設しました。ホリデー(株)が提供する、おでかけ・旅行のスポット・プランを気軽に検索できるサービス「Holiday」とも連携し、三浦半島のおでかけプランも発信。お客さまが実際に体験し、サイト内に共有したリアルな「おでかけプラン」をスマートフォンなどで見ながら、ガイドブックには載っていない穴場スポットなどを巡ることができます。



■ 三浦半島エリア勉強会

三浦半島に点在する京急グループの保有資産を活用し、三浦半島全体の活性化を実現するには、京急グループ各社の現場社員の意見やアイデアが必要不可欠です。このため、2016年度に「三浦半島エリア勉強会」をスタート。20～30代の若手・中堅を中心としたメンバーで、定期的に各社同士の意見交換を行い、今までにない、さまざまな施策を検討・実行しています。

三浦半島エリア勉強会×東京大学「三浦半島コンセプトブック」

「三浦半島エリア勉強会」では、三浦半島のコンセプトをつくり上げることを目的に、2017年5月から東京大学とともに、フィールドワークやワークショップを重ねてきました。その共同研究の成果として、再認識した三浦半島の魅力をまとめたのが「三浦半島コンセプトブック」です。京急グループでは、今後、コンセプトブックに沿った形で、「都市近郊リゾート三浦の創生」実現に向けた取り組みを実施していきます。



■ 「SKY RESORT MIURA」プロジェクト

2020年1月15日、京急電鉄は「京急アクセラレータープログラム」第2期で採択された(株)AirXと、「SKY RESORT MIURA」プロジェクトを立ち上げました。本プロジェクトでは、ヘリコプターという新たな交通手段を用いることで、交通渋滞などの道路事情を気にすることなく、短時間で目的地までアクセスが可能となる将来的な次世代交通網の事業化を目指します。同年2月には、東京から三浦半島までヘリコプターを使うことで移動時間を短縮し、「snow peak glamping 京急観音崎」での宿泊や、葉山マリーナでのクルージングを楽しむ「三浦リゾートグランピング モニターツアー」と、三浦半島の遊覧飛行と油壺エリアのレジャーや食などをセットにした「三浦スカイクルーズセットプラン」の2種類のプランで実証実験を実施。約1,300組の応募があるなど、多くの反響がありました。今後も「SKY RESORT MIURA」プロジェクトを通じた次世代交通網の整備によって、新しいサービスの創出を図ってまいります。



ヘリコプターから見た油壺周辺



犬も搭乗可能



ヘリコプター着地の様子
(横須賀市内特設ヘリポート)

Column

「三浦Cocoon」第10回かながわ観光大賞にて優秀賞を受賞!

神奈川県を訪れる観光客の増加や地域活性化に大きく貢献した事業者などを表彰する「かながわ観光大賞」。2019年10月12日～13日、2回目を迎えた「三浦Cocoon」では、「星降る町の映画祭2019」との共同開催が優秀賞を受賞しました。これは、日中は「三浦Cocoon」、夕方から「映画祭」と、1日を通して自然あふれる三浦半島を楽しんでいたというイベントを通して、たくさんの方に三浦での過ごし方を提案するという施策が評価されたもの。京急グループではこれからも、さまざまなかたちで三浦の隠れた魅力を発信していきます。



地域とともに歩む

都心から横浜・三浦半島まで地域ごとにさまざまな魅力があふれる京急沿線。京急グループでは、地域の特性や市場動向をとらえ、事業展開に生かすことで、地域の魅力向上と課題解決に努めています。これまで以上に地域との連携を強め、お客さまが求めるサービス・商品を提供していきます。

■ 横浜市現市庁舎街区活用事業基本協定書締結

横浜市庁舎の移転に伴い、「国際的な産学連携」「観光・集客」機能の導入を図り、賑わいにあふれる地区の形成に貢献するため、現市庁舎街区活用事業の公募がなされました。京急電鉄が参画する、三井不動産(株)を代表企業とする8社で構成されるコンソーシアム「KANNAI 8(呼称：カンナイエイト)」が事業予定者に選定されたことから、2019年12月27日に、横浜市と基本協定書を締結しました。今後は、2025年中の開業を目指し、締結した基本協定書に基づき、横浜市との基本計画協定書締結の準備を進めていきます。今後、当コンソーシアムが掲げるまちづくりの理念である「承継・再生・創造」と、事業コンセプトである「MINATO-MACHI LIVE」に基づき、計画の具体化を図ります。

※2020年3月末時点での計画呼称



■ 「グリーンスローモビリティ」などを活用した実証実験を実施

京急電鉄、横浜国立大学および横浜市は、2019年11月15日から急勾配な坂道が多いなどの交通課題を抱えた地域を有する横浜市金沢区富岡エリアにおいて、2018年7月に続き2度目となる「グリーンスローモビリティ(グリスロ)」などを活用した実証実験を実施しました。実証実験では、“登坂力に優れている”“小型である”という特徴を生かした「グリスロ」に加え、地域の要望をもとに「乗用車」を活用したオンデマンドサービスを提供し、沿線地域の交通課題解決を目指します。



■ 地域サービスと連携した『AI運行バス』実証実験の実施

京急電鉄と横須賀市、(株)NTTドコモは、横須賀市の逸見地区周辺で、2019年12月9日～2020年2月24日の期間に、住民の移動手段としてオンデマンド乗合交通「AI運行バス」の実証実験を実施しました。「AI運行バス」は、利用者のスマートフォンのアプリなどによる配車予約に応じて、AIがリアルタイムに乗車車両を決定し、時刻表に縛られることなく移動できる新たな交通手段であり、日常生活に必要な不可欠な医療施設や商業施設とも連携し、地域の活性化を目指しました。今後も、移動課題の解決に寄与すべく検証を進めていきます。

■ 京急グループ本社が「CASBEE-スマートウェルネスオフィス認証」Sランク取得

京急電鉄が2019年9月2日に本社を移転した「京急グループ本社」は、2019年11月28日に、CASBEE-スマートウェルネスオフィス認証において、5段階のうちの最高位である「Sランク」を取得しました。「海にひらき、空高くはばたく」を外観コンセプトとし、コミュニケーションを誘発するようなオープンスペースを兼ね備えた知的生産性の高い執務エリアを、多数配置していることなどが評価を得ています。また、産業医などによるサポートや、独自のメンタルヘルス対策を行うことで、建物内で執務するワーカーの健康性、快適性に直接的に影響を与える要素だけでなく、知的生産性の向上に資する要因や、安全・安心に関する性能についても高く評価されました。京急電鉄では、今後も働きやすいオフィス環境の推進を行っていきます。



■ Universal MaaSの社会実装に向けた取り組み

京急電鉄、全日本空輸(株)、横須賀市、横浜国立大学は、Universal MaaSの社会実装に向けた連携を開始しました。Universal MaaSとは、障がい者、高齢者や訪日外国人など、何らかの理由で移動にためらいのあるお客さまが、快適にストレスなく移動を楽しめる移動サービスです。公共交通機関の運賃、運行状況、バリアフリー乗り継ぎルートなどの情報をお客さまに提供するとともに、お客さまのリアルタイムな位置情報や、お客さまが必要とする介助の内容を交通事業者などが共有し、連携することにより、スムーズな移動体験を実現します。4者は、2019年6月から、羽田空港第2ターミナルから横須賀美術館までの移動について、実証実験を繰り返し、Universal MaaSの試験用アプリを構築しました。今後、各サービス提供者での試用を重ね、サービス提供者間で連携し、2020年度内の社会実装開始を目指します。



基幹たる交通事業の基盤強化

交通事業においては安全・安定輸送を継続するとともに、ホームドア設置などで駅ホームにおけるさらなる安全性の強化を図ります。また、「京急線アプリ」などを通じて、京急線をより快適に利用できる情報・サービスを提供しています。

■ 主要駅にホームドアを設置

2010年に京急線初となるホームドアを羽田空港第3ターミナル駅に導入し、2018年度は羽田空港第1・第2ターミナル駅に、2019年度は、京急蒲田駅、横浜駅、上大岡駅、京急川崎駅(2020年度に設置完了)に設置しました。今後は新たに平和島駅、京急鶴見駅、京急東神奈川駅、日ノ出町駅、追浜駅、汐入駅の6駅にホームドアを設置し、駅ホームにおける、さらなる安全性の強化を図ります。



京急蒲田駅に設置しているホームドア

■ 座って楽しく、土休日のお出かけシート「ウィング・シート」

2019年10月26日に実施したダイヤ改正にあわせて新設した「ウィング・シート」。本サービスは、三浦半島方面への旅行をより快適に座ってお楽しみいただけるよう、また沿線に住んでいるお客さまが一層快適に、横浜・都心方面にお出かけいただけるように開始したもので、車内には「ウィング・アテンダント」が添乗します。こちらは乗車券のほかに座席指定券(Wing Ticket)を購入することで乗車いただくことができます。なお、2020年7月18日からKQuickに加えて、ウィング・シート車内にて現金による購入も可能になりました。



運行日：土休日(年末年始のほか、一部運行しない場合があります) 運行時間：【下り】泉岳寺駅9:55発から15:15発まで計9本、【上り】三崎口駅11:16発から15:56発まで計8本

■ 燃料電池バス「SORA」導入

京浜急行バスでは、2019年2月に水素と空気中の酸素を化学反応させて発電し、発電した電気で走行する燃料電池バス「SORA」を、民間のバス会社では初めて導入しました。同年3月より大井町駅西口～お台場地区で運行を開始。2020年2月には2台目を導入しました。「SORA」は走行時にCO₂などの環境負荷物質を一切排出しないため、非常に環境に優しい車両です。また、環境性能以外にも視界支援カメラシステムや急発進を抑制する加速制御機能などを備えた、人にも優しいバスになっています。



燃料電池バス「SORA」

賃貸事業・マンション分譲事業の戦略的展開

京急グループでは品川・羽田と連携した開発を行い、街づくりの核となる賃貸事業・マンション分譲事業を展開することで、交通事業に並ぶ柱へ成長させます。また、販売のみならず、管理、リノベーション、リフォーム事業などを強化していきます。

■ 賃貸物件の取得・開発

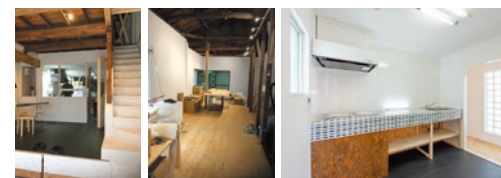
積極的な物件取得を推進し、新たな収益基盤を確立していきます。2018年3月には、SPCを通じて大規模オフィスビル「芝パークビル」の信託受益権を取得しました。



芝パークビル

■ 既存中古ストックの利活用

豊かな沿線、かつ安全・安心なまちづくりを進めるため、既存の中古ストックの利活用を推進し、空き家転貸サービスの「キャリアゲール」の展開や、横浜市立大学・横浜市との産官学連携の空き家活用を進めています。またRバンクは、空き家をシェアハウス化するリノベーションや、企業が保有する社宅を一般向け集合住宅にリニューアルする事業を推進しています。



■ 海外不動産事業の展開

インドネシア共和国ジャカルタ郊外で大規模都市開発が進められているBSD (Bumi Serpong Damai) 地区において、戸建住宅および商業施設(店舗付住宅)を複合開発する事業へ参画しています。



さらに、他社と共同で、「PT Keikyu Itomas Indonesia」を設立し、ジャカルタ南部でオフィス開発が進むシマトパンエリアのタンジュンパラット地区において、大規模複合開発計画に参画し、分譲マンション事業を展開。海外で初めて当社ブランド「PRIME」を冠した、29階建てタワーマンション「SOUTHGATE PRIME TOWER」を現在販売しています。



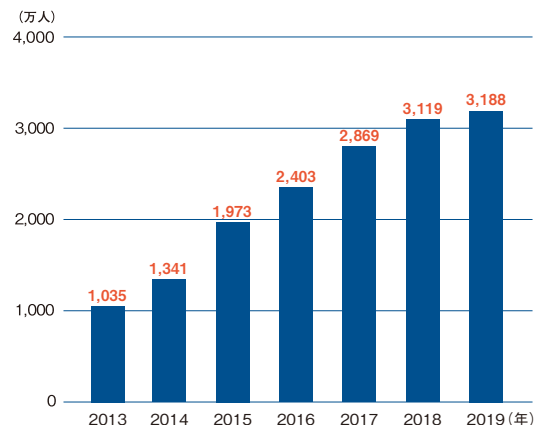
大規模複合開発計画地区「SOUTHGATE」完成予想イメージ

訪日外国人需要の取り込み

■ 訪日外国人数の増加

訪日外国人数

2019年の年間訪日外国人旅行者数は、過去最高の3,188万人(前年比約2.2%増)を記録しました。日本政府は、訪日外国人数を増やす方針で、長期的にはさらなる訪日外国人の増加が見込まれます。羽田空港第3ターミナル駅の乗降人員も年々増加しているほか、「Keikyu Tourist Information Center (Haneda Airport Terminal 3)」も多くの外国人旅行者に利用されています。

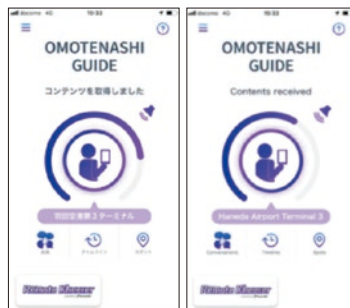


※日本政府観光局 (JNTO) 調べ

■ インバウンド施策の強化

おもてなしガイドを活用した多言語案内サービス

2018年7月、鉄道会社として日本で初めて「おもてなしガイド」を活用した多言語案内サービスを開始しました。京急線各駅(泉岳寺駅を除く)の改札口付近にて、駅ホーム(番線)案内をアプリに多言語表示(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)の4か国語に対応するほか、運行情報や路線図、おトクなきっぷ、無料Wi-Fiの利用方法などの必要情報を提供しています。



日本語での表示画面

英語での表示画面

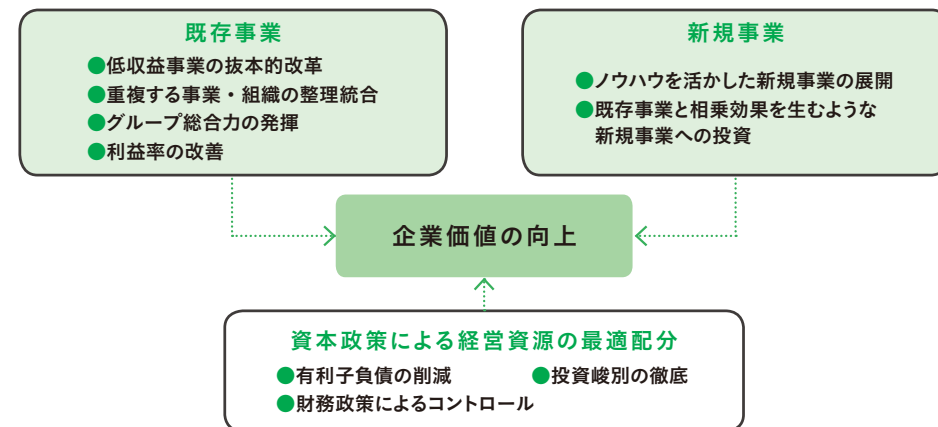
海外代理事務所の開設

2016年に台湾、2017年にタイとシンガポールに、京急のインバウンドPR業務を代行する事務所(海外レップ)を開設しています。海外レップと連携することで、現地の流行やニーズに即した情報発信が行えるようになり、これまで以上に効果的なPRが可能になりました。



筋肉質な事業構造への変革

引き続き事業再編・選択と集中の徹底を図り、京急グループの「稼ぐ力」のさらなる向上との両輪で、企業体質の強化、財務体質の健全化に取り組みます。



すべてはお客さまのために

- 1 常にお客さまの声を企業経営に取り込む仕組みを確立し、お客さま満足度の向上に努めます。
- 2 お客さま志向の徹底に向けた人材育成と人事制度改革に取り組みます。
- 3 マーケティング力、プランニング力を向上させ、ワンランク上のサービス・商品の提供を目指します。
- 4 グループ各事業の連携により、お客さまに提供する価値の向上と事業機会の拡大を図り、京急ブランドを浸透させていきます。

